

日本福祉教育・ボランティア学習学会

第31回えひめ大会 開催要項

1 テーマ

「過去の延長線上にない福祉教育・ボランティア学習を創造する」

～地域の未来を描く、協同実践とプラットフォーム～

2 大会趣旨

近年、生成 AI の活用が急速に進展し、私たちは膨大なデータから最適解を導き出し、過去の延長線上に“ある”未来を描くことが可能になりました。しかし、このような「延長線上に“ある”未来を描く仕事」は、生成 AI によって代替される可能性が高まっており、懸念の対象ともなっています。その一方で、「過去の延長線上に“ない”未来を構想し創造する力」には、依然として人間ならではの創造性が求められており、改めてその重要性が注目されています。

福祉教育・ボランティア学習に関する実践や研究も、これまで蓄積されたデータや知見を活用することで、一定のプログラムや研究成果を容易に得ることが可能になっています。しかし、福祉教育・ボランティア学習は、福祉に関する知識や理解、活動を求めるだけにとどまらず、「地域共生社会の実現」に向けた地域づくりの一環として、より大きな社会的意義を担うようになっています。

こうした変化の中で、「福祉教育・ボランティア学習とは何か」という根本的な問いが、私たちに投げかけられています。実際に、本学会では、課題別研究に見られるように、これまでにない新たな視点からの研究も進められており、さらに、全国各地ではデータには表れにくい豊かな実践も多く存在しています。これらはまさに、「過去の延長線上に“ない”福祉教育・ボランティア学習」の可能性を示しているといえるでしょう。

本大会の最大の特徴は、全国の実践者、研究者、参加者が、互いの当事者性を交差させ、学び合うことができる場である点です。前日企画、総合シンポジウム、課題別研究、情報交換会、自由研究発表といった多様なプログラムを通して、福祉教育・ボランティア学習の意義・必要性・理論・価値についての言語化を促進していきます。本大会を通じて、生成 AI には模倣できない、私たちにしかできない「過去の延長線上にない福祉教育・ボランティア学習の創造」について、皆さまと共に考えていきたいと思ひます。

愛媛県での3日間が、参加者の皆さまにとって、新たな地域の未来を描く契機となることを、実行委員会一同、心より願っております。

3 主催

日本福祉教育・ボランティア学習学会 第31回えひめ大会実行委員会

4 後援

愛媛県、愛媛県教育委員会、聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部、人間環境大学、愛媛大学、松山大学、全国社会福祉協議会、愛媛県社会福祉協議会、愛媛県内20市町社会福祉協議会、愛媛県民生児童委員協議会、愛媛県・社協職員連絡会、愛媛県ホームヘルパー協議会、愛媛県保育協議会、愛媛県老人福祉施設協議会、愛媛県児童福祉施設連合会、愛媛県社会就労センター協議会、愛媛県社会福祉法人経営者協議会

5 日程

令和7年11月29日（土）～30日（日）

6 会場

聖カタリナ大学 北条キャンパス（松山市北条660）

7 日程

※前日企画については、3ページをご確認ください。

▼大会1日目

9:00～	受付
10:00～11:30 (90)	ふく・ボラサロン『—ふくし教育のテイギをいっしょにつくろう！—』
11:30～12:30 (60)	昼食休憩・移動 ※内 11:40～12:20 (40) にランチセッション (昼食をとりながら参加していただけます。) 『研究・論文作成における倫理的配慮とは』
12:30～12:50 (20)	開会式 ・学会長挨拶 ・大会長挨拶
12:50～14:10 (80)	総合シンポジウム 『続 究める 拡がる 福祉教育・ボランティア学習～実践と研究の歩みとこれからの未来～』
14:10～14:25 (15)	休憩・移動
14:25～16:35 (130)	課題別研究[学会企画] ①『「社会福祉・介護福祉検定」のレリバンスーその3—』 ②『福祉教育・ボランティア学習における当事者/当事者性研究とインクルーシブボランティア—インクルーシブボランティアは、当事者の主権を侵害しない「学習者の当事者性獲得」を可能にするのか—』 ③『社協職員の福祉教育実践における価値の言語化～多様な実践の蓄積から紡ぎだす基盤としての価値～』 課題別研究[えひめ企画] 『愛媛県における福祉教育・ボランティア学習のプラットフォームの変遷と可能性～防災学習を中核とした多様な主体の連携・協同による地域づくり～』
16:35～16:50 (15)	休憩・移動
16:50～18:10 (80)	学会総会
18:10～19:30 (80)	移動（情報交換会出席者のみ） ※実際の移動所要時間は約 50 分
19:30～21:30 (120)	情報交換会 ANAクラウンプラザホテル松山 本館4階「ダイヤモンドボールルーム」

大型バスで送迎（事前申込）

▼大会 2 日目

9:00～	受付
9:30～11:50 (140)	自由研究発表（口頭・ポスター）
11:50～12:20 (30)	休憩・移動
12:20～12:30 (10)	大会発表賞表彰式
12:30～12:50 (20)	閉会式 ・実行委員長挨拶 ・学会副会長挨拶 ・次期開催地挨拶

8 プログラム内容

▼前日企画 学会ネットワーク委員会企画ワークショップ

『実践者の言葉で語ろう“福祉教育の価値と創造”』

住民の主体形成をめざす福祉教育の価値や意義、地域共生社会の実現に向けた実践の可能性を、福祉教育に関わる全ての関係者が共有し、協同実践につなげていくために、実践者自身による言語化をめざしたい。そのために、ともに語り、議論する場としてワークショップを開催します。

日 時：令和7年11月28日（金）13:30～16:30

※終了後交流会を開催（任意参加／1時間程度）

会 場：サイボウズ松山オフィス（松山市二番町3丁目7-12 3階）

定 員：50名（先着順）

参 加 費：無料（交流会は参加費500円を当日集金）

タイムテーブル：

時間	内容	担当者
13:30～13:40 (10)	趣旨説明	ネットワーク委員会 梅木 博志（横浜市社会福祉協議会） 坂本 大輔（登別市社会福祉協議会） 伊藤 光洋（江南市社会福祉協議会） 畑 清美（三田市社会福祉協議会） 牧野 大樹（横浜市港北区社会福祉協議会）
13:40～14:40 (60)	事例発表 （質疑応答含む）	包摂の新しい学び創造委員会（愛媛県新居浜市） 本山町社会福祉協議会（高知県）
14:40～15:10 (30)	事例を読み解く	ネットワーク委員会 （事例発表者とやり取りし、事例を深める）
15:10～15:20 (10)	休憩	
15:20～16:10 (50)	グループワーク	（テーマ／仮） ・福祉教育の価値・意義を表現しよう ・福祉教育の協同実践の可能性を語りあおう
16:10～16:30 (20)	グループ発表 まとめ	ネットワーク委員会

世話人：日本福祉教育・ボランティア学習学会ネットワーク委員会

全国社会福祉協議会 全国ボランティア・市民活動振興センター

申込方法：グーグルフォーム (<https://forms.gle/2MVZUwKmTgZ2qqaL7>) からお申込みください。



※この企画に係る会場は、本大会と異なります。お間違いないようご注意ください。

※前日企画は、本大会に参加しない方も参加可能です。

▼大会 1 日目

●ふく・ボラサロン

『一ふくし教育のテイギをいっしょにつくろう！』

ふく・ボラサロンは、2018年のあいち・なごや大会から6回目を数えるお馴染みの企画となりました。本企画は、福祉教育やボランティア学習に関心をもつ（若手）研究者及び福祉教育やボランティア学習に思いをもって取り組む実践者、またそれらに関心のあるユース（高校生・大学生・大学院生・若手研究者/実践者）が、所属や研究領域を越えてあつまり、日頃の活動、研究／実践にける思いや悩みを共有しながら交流しています。

本年度は、「ふくし教育のテイギをいっしょにつくろう！」をテーマにふくし教育についてこんなメッセージを込めたい、こんな思いを持って日頃活動しているといったココロザシを交差させる場にしたいと思います。非会員の方、初めての方も大歓迎です！ぜひぜひご参集ください！

【世話人】堤 拓也（佛教大学）、後藤 聡美（神戸大学）、小林 洋司（日本福祉大学）

●ランチセッション

『研究・論文作成における倫理的配慮とは』

近年、研究実践、論文投稿における倫理的配慮の問題が、強く意識されるようになっていきます。多くの大学等研究機関においても、「ヒトを対象とする研究倫理」に関する審査が厳格化される傾向にあります。本学会では、研究機関に属さない会員も多いことを念頭にしつつ、2019年に「学会研究紀要論文投稿に関する倫理ガイドライン」を策定しました。その後の大会報告、投稿論文においては、倫理的配慮に関する事項を明示することとなっています。

今大会では、初めての試みとして、機関誌編集委員会と研究・倫理委員会の共催で、「研究・論文作成における倫理的配慮」に関するランチセッションを開催します。倫理的配慮に関する会員の疑問や不安を持ち寄り、学会内外の好適例に学ぶ機会を設け、学会全体として、投稿論文における研究倫理について、もう一段の高みを目指そうとするものです。

「論文投稿にあたって、『倫理的配慮』とは何が求められているのか」、「そもそも実践研究における『倫理的配慮』とは」など、素朴な疑問をお持ちの会員のみなさんご参加をお待ちしております。

【世話人】機関誌編集委員：山田 一隆（東海大学）、高木 寛之（山梨県立大学）

研究・倫理委員会：川島 ゆり子（日本福祉大学）

●開会式

学会長あいさつ 野尻 紀恵（日本福祉大学）

大会長あいさつ 坂原 明（聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部）

●総合シンポジウム

『続 究める 拡がる 福祉教育・ボランティア学習～実践と研究の歩みとこれからの未来～』

本シンポジウムでは、とうきょう大会で議論された研究と実践の到達点という問いを深め、ひとつの事例として、全国社会福祉協議会が示す「地域福祉は福祉教育ではじまり福祉教育でおわる」（2012）を、どのように地域の実情や社会状況に合わせ調整しながら実装していったのか、小規模社協の具現化と研究者の一般化の10年間の協同作業を紐解きます。

地域を基盤とした福祉教育を一緒に就けるため、福祉教育・ボランティア学習に関わる好事例やプログラムの提案、手法や方策が示され、全国の実践者や社会福祉協議会がそれらを参考に実践を展開しています。一方で、このような取り組みは、地域の実情の違いから、そのまま展開することの難しさがあり、地域ごとに新しい福祉教育事業を構想していくことも求められています。さらに、急激な社会の変化において、福祉教育・ボランティア学習の根幹となる福祉とは何か、ボランティアとは何かを問い直すことも求められています。

しかし、福祉教育・ボランティア学習に関わる職員は、経験の浅い職員が配属され、兼務、少人数、数年で異動という現状もあり、全国の実践者の豊かな知見を地域に実装すること、福祉やボランティアを問い直すことの難しさも指摘され続けています。

そこで、シンポジウム前半は、愛媛県愛南町社会福祉協議会の実践と研究を俯瞰し、福祉教育・ボランティア学習が積み上げてきた実践と研究の知見をどのように読み解いたのかを探ります。

シンポジストに、町内の福祉教育・ボランティア学習のステークホルダーである社会福祉協議会、地域活動団体、社会福祉法人職員をお招きし、プラットフォームの形成、福祉の問い直し、地域を基盤とした福祉教育といった視点から報告していただきます。シンポジウム後半は、コメンテーターに研究者、実践者をお招きし、研究と実践の現在地と次の到達点について、議論を深めていきます。

【コーディネーター】高木 寛之（山梨県立大学）

【シンポジスト】宮崎 早苗（愛南町社会福祉協議会）、山口 憲昭（柏遊会：地域活動組織）
馬詰 圭祐（特別養護老人ホーム自在園）

【コメンテーター】小林 洋司（日本福祉大学）、宮本 朋子（有田市社会福祉協議会）

●課題別研究[学会企画]

①『「社会福祉・介護福祉検定」のレリバンスーその3ー』

10年間で約3万人の高校生が受験してきた「社会福祉・介護福祉検定（全国福祉高等学校長会主催）」のレリバンスを明らかにする目的で、KJ法を用いた当事者参画型研究を行った。その結果、合格を目指して頑張る生徒の【エネルギー】、学習成果【可視化】や【福祉観】醸成、【専門性】獲得による【キャリア形成・進路保障】との【好循環】、レリバンスの【手応え】や【検定拡大への期待】が示された。一方、教育現場の【多忙化】や【教員負担】等の課題も浮上した。現在、全国福祉校長会と昨年度設立された（一財）全国高等学校福祉教育振興会が協力連携して検定概要の再検討中であり、事業は大きな転換点に立っている。少子高齢化や深刻

な介護問題を背景に、国民生活は社会福祉・介護福祉と不可分であり、今大会では福祉系高校を基軸として発展してきた本検定が、広く社会に門戸を開き、社会福祉協議会や福祉機関・行政等と連携して発展する方策を論議したい。

【世話人】矢幅 清司(淑徳大学)、真田 龍一(東奥学園高等学校)、
中山 見知子(群馬県立藤岡北高等学校)、茶木 正幸(名古屋市立西陵高等学校)、
高木 諒(愛知県立古知野高等学校)、出沢 秀子(山梨県立大学)、
清信 大樹(人間環境大学)、岡 多枝子(人間環境大学)
※研究協力：鈴木 幹治(三重県立朝明高等学校)

②『福祉教育・ボランティア学習における当事者/当事者性研究とインクルーシブボランティア

ーインクルーシブボランティアは、当事者の主権を侵害しない「学習者の当事者性獲得」を可能にするのかー』

今年度は、昨年度の議論を踏まえ、「インクルーシブボランティア」の実践に「当事者」「当事者性」をめぐる研究の知見を挿入することで、理論を補強することを目指す。これにより、教育と福祉という異なる学問的背景を持つ会員で構成される本学会の実践・研究活動に資するものとしたい。

問いと仮説は以下の通りである。福祉教育・ボランティア学習の中では、学習者の当事者性を高めることをめざすが、そのことと、当事者自身の当事者性を高めること（＝当事者主権を尊重すること）との折り合いはどうつけるべきなのだろうか。この問いへの応答として仮説的に言えることは、「インクルーシブボランティアへの参加は、ボランティア（学習者/支援者）の当事者性を高めることに貢献するのではないか、しかし、その際留意すべき点もあるのではないか」というものである。本学会における当事者性研究を牽引するゲストスピーカー（神戸大 後藤聡美さん）に発題をお願いし、ディスカッションによって仮説を検証していく。

【世話人】岩本 裕子（関西国際大学）、妻鹿 ふみ子（神奈川大学非常勤）、
南 多恵子（関西福祉科学大学）岩田 貞昭（大阪人間科学大学）、
永井 美佳（大阪ボランティア協会）、青山 織衣（大阪ボランティア協会）、
村上 貴栄（兵庫大学）

③『社協職員の福祉教育実践における価値の言語化～多様な実践の蓄積から紡ぎだす基盤としての価値～』

“共生社会”の実現に向けた多様性への理解促進と協同の力を育む人づくりの大切な福祉教育の価値を“だれにも伝わる”ものとして言語化できる社協職員は多くない。

本研究では福祉教育実践のケーススタディの蓄積から、“伝わる”言語の共通点や相違点を分析し、そこに内在する関係者の相互変容を、実践者である社協職員と研究者の協同研究により捉え、そのプロセスを通じ、社協職員の福祉教育実践における価値の言語化とは何かを実践者と研究者との討議から「実践の言語」として紡ぎだす。

今回は、社協が取り組んできた福祉教育の歴史を振り返り、福祉教育の実践事例を多様な立場や視点で掘り下げながら事例を捉え直し、価値の言語化について討議する。

【世話人】梅木 博志（横浜市社会福祉協議会）、伊藤 光洋（江南市社会福祉協議会）、
井上 正太郎（宮崎県社会福祉協議会）、川島 ゆり子（日本福祉大学）、
坂本 大輔（登別市社会福祉協議会）、渋谷 篤男（日本福祉大学）、
高木 寛之（山梨県立大学）、畑 清美（三田市社会福祉協議会）、
牧野 大樹（横浜市社会福祉協議会）

●課題別研究[えひめ企画]

『愛媛県における福祉教育・ボランティア学習のプラットフォームの変遷と可能性～防災学習を中核とした多様な主体の連携・協同による地域づくり～』

本課題別研究は、愛媛県における県社協、市町社協、学校実践という3領域での実践者と研究者が構築してきたプラットフォームの拡張の変遷を通して、それぞれのプラットフォームのミッション、マネジメント、プログラムについて話題提供を行います。そして、福祉教育・ボランティア学習のテーマとして防災学習を取り上げ、多様な主体の連携・共働による実践を振り返りながら、地域づくりとの接点を考察しながらプラットフォームの可能性を探求します。

後半は、参加者と全国で行われている地域の実情に応じた豊かな福祉教育・ボランティア学習の実践や研究の情報交換を行います。そして、福祉教育・ボランティア学習実践の向上のために求められるプラットフォームへの期待や可能性について、深めていきます。

【コーディネーター】 高木 寛之（山梨県立大学）

【話題提供者】 喜安 恒賀（愛媛県社会福祉協議会）、
木村 謙児（八幡浜みなと みなと交流館）、
武田 祥枝（松野町社会福祉協議会）、宮土 良太（トロール会議事務局）、
丸山 真利奈（八幡浜市社会福祉協議会）、前田 眞（愛媛大学）
林 昭子（BOUSAI ゼミな～る実行委員会・BISAI-FARM）、

【コメンテーター】 大石 剛史（東北福祉大学）、高橋 良太（全国社会福祉協議会）

●学会総会

●情報交換会 ANAクラウンプラザホテル松山 本館4階「ダイヤモンドボールルーム」

▼大会2日目

●自由研究発表（口頭・ポスター）

- ①概念・原理・歴史・政策
- ②学校を中心とした展開
- ③高等学校を中心とした展開
- ④大学を中心とした展開
- ⑤地域・施設・社協を中心とした展開
- ⑥実践プログラム・評価に関する報告
- ⑦海外の動向などに関する報告

※申込方法は12ページ「自由研究発表者へのご案内」をご覧ください。

●大会発表表彰式

※大会発表表彰の選考方法は、14ページ「大会発表賞のご案内」をご確認ください。

●閉会式

実行委員長あいさつ 木村 謙児（八幡浜みなとみなと交流館）

学会副会長あいさつ

次年度開催地あいさつ

9 参加費

参加区分		大会参加費 (報告要旨集代を含む)	情報交換会代	弁当代（お茶付き）
①	会員（一般）	7,000円	8,000円	1,000円
②	会員（学生）	2,000円		
③	非会員（一般）	8,000円		
④	非会員（学生）	3,000円		

報告要旨集（別途購入の場合）	2,000円
30周年記念誌（研究編・実践編の2冊セット）	4,400円

10 大会申込・参加費振込

- (1) グーグルフォーム (<https://forms.gle/rmiQ5iafhguxtBpKA>) からお申込みください。なお、フォーム入力が難しい場合は、電話及びメールでも対応可能です。下記事務局までご連絡ください。ご連絡いただいたのち、必要事項をお伝えします。
- (2) 団体会員の場合も、申込は個人単位で行ってください。
- (3) 情報保障や託児を希望する方は、大会参加申込時にご相談ください。
- (4) 振込口座は下記のとおりです。（※振込手数料は貴社・団体負担）
- (5) 申込・振込期限は、**令和7年10月30日（木）**です。
- (6) 入金後の参加費（参加費・弁当代・情報交換会代等を含む）の返金は、対応しておりません。あらかじめご了承ください。
- (7) 大会当日も含めて、現金での支払いはできませんので、事前申込・振込にご協力ください。
- (8) 自由研究発表（口頭・ポスター）の詳細及び申込については、12ページをご確認ください。
- (9) 申込で取得した個人情報は、その取扱いに十分注意し、本大会の参加者管理以外の目的では使用しません。



<振込先>

金融機関名	みずほ銀行
支店名	松山支店（651）
預金種目	普通
口座番号	2160776
口座名義	東武トップツアーズ株式会社 松山支店

11 連絡事項

- (1) 要項のデータは、大会案内ホームページからダウンロードできます。
U R L <https://ehime-shakyo.or.jp/31kaiehimetaikai>
- (2) 宿泊が必要な方は、各自でお早めに手配をお願いします。なお、北条キャンパス周辺に宿泊施設はございませんので、松山市内でお取りください。
- (3) 市内には、J R松山駅（J R鉄道運営）と松山市駅（伊予鉄道運営）があり、伊予北条駅（北条キャンパス最寄り駅）へ向かう電車は、J R松山駅からのみ発車です。お間違いのないよう、ご注意ください。また、伊予北条駅から北条キャンパスまでは、徒歩15分程度です。
- (4) 車でお越しの方は、北条キャンパス学生駐車場をご利用ください。
- (5) 北条キャンパス周辺にタクシー会社がございます。利用する場合は各自事前にご予約をお願いします。



(例)・愛媛近鉄タクシー株式会社

T E L 089-924-6111

U R L <https://www.ehimekintetsu.co.jp/taxi/reserve>

・伊予鉄タクシー株式会社

T E L 089-921-3166

U R L <https://www.iyotetsu.co.jp/taxi/reservation>

・第一交通 松山営業所

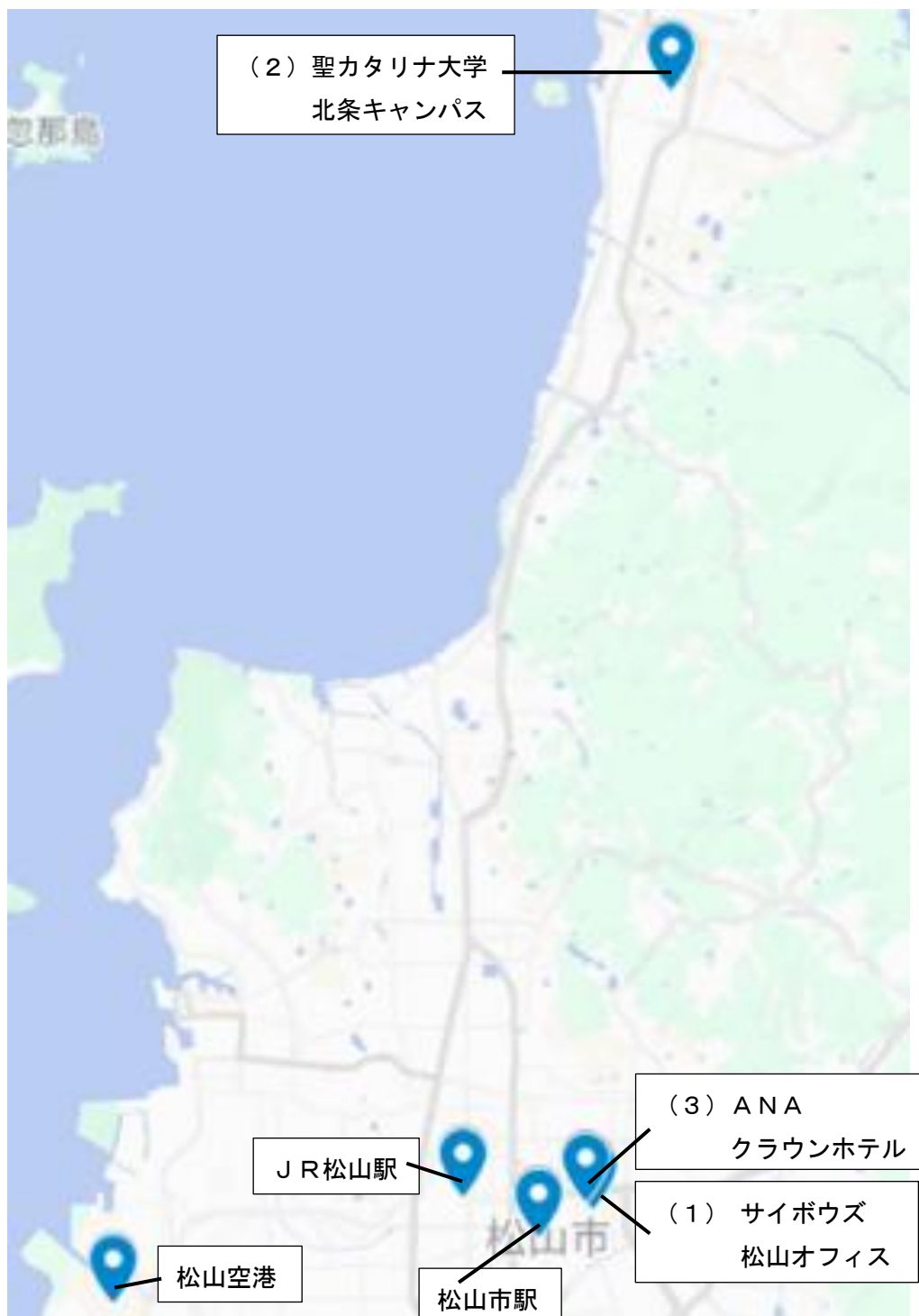
T E L 089-974-2700（電話予約のみ）



- (6) 北条キャンパス周辺で買い物ができるところは限られています。最寄りのお店は、フジ北条店（徒歩約11分・松山市北条辻225-3）とローソン松山北条バイパス店（徒歩約14分・松山市中西外65-4）です。その他は、伊予北条駅周辺のセブンイレブン北条土手内店（徒歩約17分・松山市土手内15-5）とAコープハトマート北条店（徒歩約14分・松山市北条辻445-3）です。また、学生食堂は営業しておりませんので、昼食（弁当）が必要な方は、参加申込フォームから事前にお申し込みください。
- (7) 各自のスケジュール、交通手段（所要時間）等にあわせて、時刻表等ご確認の上、余裕を持ってお越しください。
- (8) 学内のネットワーク環境については、下記のとおりです。
- ①参加者が一般使用する場合
⇒学生用フリーWi-Fiを使用してください。パスワードは、各教室前方等に表示します。
回線がスムーズでないことも想定されますので、不安な方は各自でポケットWi-Fi等をご準備ください。
- ②発表者が使用する場合（ハイブリッド形式で発表する場合やネット上の動画再生等行う場合等）⇒あらかじめ事務局へご連絡ください。
- (9) ご不明な点等がありましたら、大会事務局までご連絡ください。

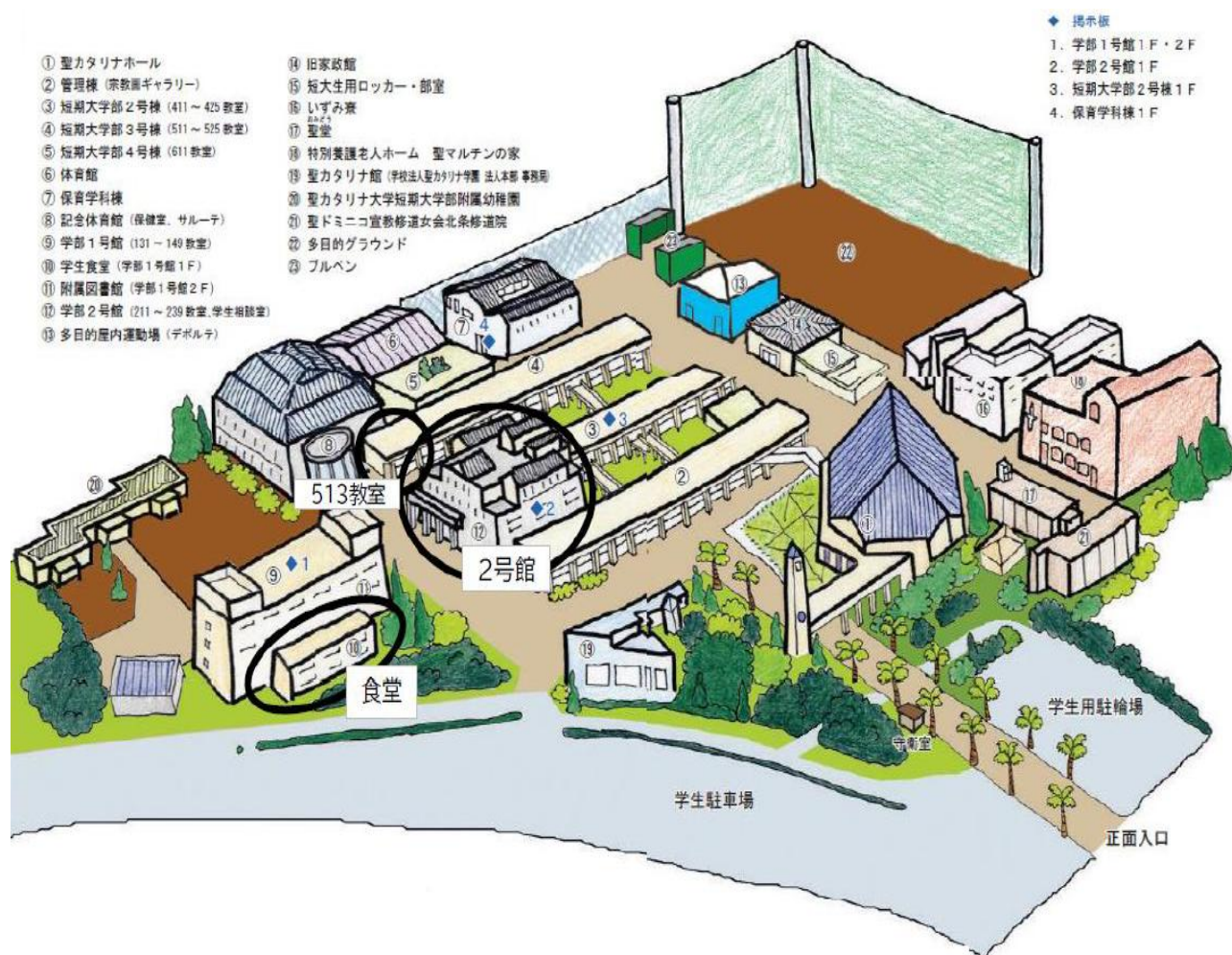
12 会場アクセス

- (1) 前 日 企 画：サイボウズ松山オフィス（松山市二番町 3 丁目 7 - 1 2 3 階）
- (2) 大 会：聖カタリナ大学 北条キャンパス（松山市北条 6 6 0）
- (3) 情報交換会：A N A クラウンプラザホテル松山（松山市一番町 3 丁目 2 - 1）



13 キャンパスマップ

※「2号館、513教室、食堂」を使用予定です。



14 大会事務局

愛媛県社会福祉協議会 地域福祉部 地域福祉課 (担当: 松本・喜安)

愛媛県ボランティア・市民活動センター

〒790-8553 松山市持田町三丁目8番15号

TEL 089-921-8912 / FAX 089-921-8939

Eメール chiiki@ehime-shakyo.or.jp / URL <https://ehime-shakyo.or.jp/31kaiehimetaikai>

自由研究発表者へのご案内

1. 自由研究発表は「口頭発表」と「ポスター発表」の2つの形式があります。

- (1) 口頭発表は、発表時間20分、質疑応答10分で行う形式です。
- (2) ポスター発表は、所定の場所に3時間ポスターを掲示し、指定された時間内に在席して、質疑に応答する形式です。
- (3) いずれの発表も、学会の発表として認められます。

2. 発表者の資格について

- (1) 自由研究の発表者は、本学会の会員に限ります。ただし共同研究の場合、連名者は非学会員でもかまいません。
- (2) 自由研究発表者は、下記の要件を満たしている必要があります。
 - ①自由研究発表者は、本学会の会員であること。
 - ②上記①の本学会会員は、10月1日（水）までに2025年度の学会年会費を納入していること。
 - ③発表申込及び発表要旨原稿登録を、10月1日（水）までに済ませていること。
- (3) 非学会員で自由研究発表を希望する方は、9月1日（月）までに本学会への入会手続きを行ってください。
※入会については、学会ホームページ（<https://jaass.jp>）をご覧ください。

3. 発表の申し込み

- (1) 自由研究発表希望者は、グーグルフォーム（<https://forms.gle/9Xi2zsmaKvoVnLfPA>）からお申し込みください。

4. 原稿の執筆について

- (1) 自由研究発表希望者は大会当日に配布する報告要旨集への掲載原稿をご提出ください。原稿様式は、大会ホームページ（<https://ehime-shakyo.or.jp/31kaiehimetaikai>）からダウンロードできます。
- (2) 提出された原稿は、研究倫理、様式等を確認したうえで、版下としてそのまま印刷・製本します。
- (3) 執筆原稿は、「自由研究発表の原稿様式」を参照のうえ、作成してください。
- (4) 原稿量は1つの発表につきA4判用紙2枚です。字数・行数は、1枚につき40字×40行を、余白は、上下左右2cmを原則とします。
- (5) 1枚目の原稿の上部枠内に、①発表演題名、②所属、③発表者名、④連名者名を明記してください。連名者がいる場合は、発表者の名前の前に○印をつけてください。発表者は1名とします。また、同一会場で2コマ以上連続して発表する場合は、発表の順序がわかるように、発表演題名の後に（その1）（その2）という体裁で記入してください。ただし、連続した報告は2コマまでとします。

- (6) 原稿は、①研究の目的、②研究の方法、③倫理的配慮、④研究の結果、⑤考察という基本的な枠組みを示して、簡潔明瞭に執筆してください。結果、考察について「当日資料配付」という未完成の原稿は認められません。必ず結果・考察まで記載してください。発表原稿の枠組みが不十分な場合は、原稿の差し替えをお願いする場合があります。

5. 原稿の提出

- (1) 原稿の提出期限は、10月1日(水)です。
- (2) 原稿(W o r d形式)は、大会事務局(chiiki@ehime-shakyo.or.jp)へメールで提出してください。様式は、大会ホームページに掲載しています。
- (3) 提出された原稿は、原則としてそのまま要旨集の版下として印刷します。
- (4) 自由研究発表のプログラムは大会前に発行される学会ニュースに掲載されます。

6. 口頭発表での視聴覚機器の使用及び当日配布資料の準備等

- (1) 口頭発表での、プロジェクター等の視聴覚機器は使用可能です。使用有無については各自でご判断ください。いずれにしても、参加者へ配付する資料(50部程度)はご準備ください。
- (2) 9:00に各教室に集合し、配布資料及び発表資料を司会者と確認(倫理チェック等)してください。
- (3) 配布資料は、発表が始まる15分前までに会場の係員にお渡しください。

7. ポスター発表の方法及び当日配布資料の準備等

- (1) ポスター発表会場内の所定の場所(後日指示します)に、11月30日(日)9時までにご持参のポスターを各自で掲示してください。9:30~10:30に発表してください。
ポスターは、11:50にはがしてください。
- (2) 掲示範囲は、縦160cm・横90cmです。ポスターの大きさは、この範囲で遵守してください。
- (3) ポスターの最上部に、発表タイトル・発表者名・所属を明記してください。
- (4) 参加者に配布する資料がある場合は、適宜、参加者にお渡しください。

大会発表賞のご案内

日本福祉教育・ボランティア学習学会では、自由研究発表において独創的かつ将来性のある優れた口頭発表をされた方に対して、大会発表賞を贈っています。選考結果は、大会時に発表し、広く公表されます。

選考対象者となる資格（条件）を有し、かつ選考対象者として自己申告された方が、大会発表賞の選考対象者となります。以下の概要を参考にして、自由研究発表申込書に必要事項を記載して、選考対象者としての申告を行ってください。

1. 対象について

選考対象者の資格は、自由研究発表者のうち、次の（１）及び（２）に該当する者が有する。

（１）次の①から④のうち、いずれか一つの条件に該当する者。

①大学院修士課程または博士課程に在学中の者

②修士課程修了後１３年以内の者 *

③最終学歴が学部卒業の場合は、卒業後１５年以内の者 *

*②及び③の卒業月の末日から起算する。（例）大学院３月修了の場合は３月３１日を修了の日とし、１３年後の３月３１日まで資格を有する。

④実践者としての経験を有し、本学会の通算在籍期間が１０年に満たない者。

（２）自由研究発表申し込み時に選考対象者として自己申告をした者。

（３）上記条件の該当者であっても過去に大会発表賞を受賞した者は対象から外す。

2. 選考について

（１）選考では、①及び②を審査の対象とする。

①大会要旨集に掲載された発表資料

②発表時の内容（当日配布された追加資料がある場合はそれを含む）及び質疑での回答

（２）選考方法

①自由研究発表分科会会場の司会者による評価・投票

②本学会員による評価・投票

③大会事務局の協力のもとに、①及び②による投票用紙を回収し、選考委員会が開票する。各候補者の平均点・投票数をもとに計算式（平均点＋投票数×０．１）によって順位をつけ、原則として３名以内を大会発表賞受賞者とする。

3. 結果発表について

発表は原則として、大会閉会時まで選考委員会が行う。

以上、日本福祉教育・ボランティア学習学会大会発表賞規定及び大会発表賞細則にもとづき選考を行います。

自由研究発表の原稿様式

発表演題名

○ ▲▲▲▲▲大学 愛媛 太郎 (00-0000)
▲▲▲▲▲大学 松山 花子 (11-1111)
■市社会福祉協議会 北条 一郎 (非会員)

1 研究の目的

***** 明朝 10 ポイント *****

2 研究の方法

***** 明朝 10 ポイント *****

3 倫理的配慮

***** 明朝 10 ポイント *****

4 研究の結果

***** 明朝 10 ポイント *****

5 考察

***** 明朝 10 ポイント *****

【引用文献】